

日 時：2023 年 12 月 8 日（金）17：00～18：30

場 所：海峡メッセ下関 海峡ホール（国際貿易ビル 9 階）

総社員数：340 名

出席社員数：303 名（当日出席 56 名、委任状 239 名、議決権行使 8 名）

出席理事・監事：吉沢豊予子（理事長）、西村ユミ（副理事長）

（うち 11 人社員） 有森直子、大久保暢子、鎌倉やよい、萱間真美、グレッグ美鈴、佐藤和佳子、
田口敦子、山本則子、吉永尚紀、井部俊子（監事）、数間恵子（監事）（以上 50 音順）

議 長：吉沢豊予子理事長

配 布 資 料：12 月社員総会議案書（議事次第）

議事録作成：小迫幸恵（山口県立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

I. 開会

開会時、現在出席者数 50 名（うち理事・監事 11 名）、有効委任状・議決権行使 247 名で、日本看護科学学会定款第 23 条および 24 条を満たしているため、公益社団法人日本看護科学学会 2023 年 12 月社員総会を開催することが報告された。司会は西村ユミ副理事長、記録は小迫幸恵（山口県立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）である。

II. 理事長挨拶

吉沢豊予子理事長より挨拶があった。

6 月に東京で行われた社員総会では 2023 年度に新たに理事、監事に就任された皆様とともにご挨拶をさせていただいたが、今回、山口県下関の地で初めてお会いする社員の方々もおり、こうして対面での社員総会ができることを改めて嬉しく思う。

新型コロナウイルス感染症が今年 5 月に 5 類感染症に分類され、今までの非日常が日常に戻りつつある。私たち医療職者はこの新型コロナウイルス感染症の対応を続けており、インフルエンザ感染やその他の感染症にも気を使いながら日々を過ごしている。

2022 年 2 月にロシアがウクライナへの侵攻を始め、もうすぐ 2 年になろうとしている。それぞれの思惑が異なりいつ終戦となるのか、全く見えない状態である。今年 10 月にはハマスによるイスラエルへの攻撃が始まり、ガザ地区での人質、ガザ地区でのイスラエルへの攻撃と続いている。人質解放や停戦もあったがそれも束の間、また戦闘が始まった。世界のあちらこちらで多くの犠牲者が出ているこの状況を憂うとき、私たちの看護あるいは科学の中でウェルビーイングが盛んに言われているが、単なる飾りの言葉に過ぎないのではと考えさせられる。

また、フィリピンのミンダナオ島で大地震があり津波が押し寄せた。異常気象、そして地球環境も大きく変わっている。様々なニュースにより予測困難な時代が押し寄せている。私たちがこの世の中で生きていくために、個人がどのような力を備えていけばよいか、私たちが育ててきた看護学がどのような働き方をこの世の中にもたらすことができるのか、看護の力で世界をよい方向に変えていくことができるだろうか、そんなことを日々考えている。

さて、今期も半年が経過し、前期から引き続き様々な事業に日本看護科学学会は取り組んできた。この事業を継続しながら、よりよくするためのブラッシュアップを進めているところである。

自身も理事長として新しい事業をいろいろと考え、理事会でも提案を始めているが、もう少し時間をいただきたいと思う。日本看護科学学会として看護を見据えながら、今後、新規事業を起こせるのか考えていく所存である。

本日の社員総会は、来年度の予算も含め3つの議案を予定している。

これからそれぞれの理事がこれまで取り組んできたこと、今後の事業計画などを報告するので、ご確認いただければと思う。

次に、明日から開催の第43回学術集会会長田中マキ子先生にご挨拶いただく。テーマは「未来を拓く看護のサイエンス&アーツ：伝統と革新の融合」という、とても素敵なテーマになっている。社員はじめ会員の皆様とこの地で集い、大いに学術について論じる場になることを楽しみにしている。

Ⅲ. 第43回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

田中マキ子第43回学術集会会長より以下の挨拶があった。

ようこそ山口の地へ、下関へおいでくださり感謝申し上げます。

幸い2日間とも天候や気温には恵まれる予報である。今回の学術集会会長を引き受け、天候や自然災害、事件事故はないかと案じながらこの日を待ちわびていたが、どうにか明日からの開催にこぎつけることができた。現在のところ、3,370名の登録をいただいている。学術集会が始まりましたら参加者の皆様方と盛り上げていきたいと思っているので、これからの2日間、あらためてよろしくお願ひしたい。

会場は、この建物がメインとなり、あと2つ、生涯学習プラザに加え下関市民会館を急遽追加し3会場とした。少し距離があるため、巡回バスを走らせる予定である。併せて、昼食時は唐戸市場までの巡回バスも用意しているので、下関の食も存分にお楽しみいただきたい。

開催にあたっては不便もあると思うが、皆様の力で学会を盛り上げていただけると幸いである。

Ⅳ. 議長指名および議事録署名人の承認

議長は定款第22条3項にしたがい、吉沢豊予子理事長が務める。

議事録署名人は、会場からの挙手がなかったため、議長から野間口千香穂（宮崎大学）、藤野あゆみ（愛知県立大学）の2名が推薦され、承認された。

Ⅴ. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

1) 総務報告（田口敦子理事）

議案書4頁に沿って報告があった。

・2023年10月22日現在の会員数は、正会員と名誉会員、賛助会員の合計で10,341件であった。

4月1日時点で正会員数は9,531名、その後の入会者、死亡者を換算して2023年10月22日現在の正会員数は10,316名となっている。地区別正会員数は4頁をご参照いただきたい。

・正会員数の推移については微増である。

2) 理事会報告（田口敦子理事）

議案書 5-8 頁に沿って報告があった。

- ・ 5 回の理事会、2 回の臨時理事会を開催した。

詳細は 5-8 頁を参照いただきたい。

3) 委員会活動報告

議案書 13-24 頁に基づき、各委員会担当理事より委員会活動報告があった。委員会名簿は 9-12 頁に公開している。

(1) 和文誌編集委員会（井上智子担当理事が欠席のため吉沢議長より報告）

議案書 13 頁に沿って報告があった。

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・ 日本看護科学会誌 43 巻をオンラインで発刊。
- ・ 2023 年 1 月以降の投稿論文数は、240 編であった（2023 年 10 月 20 日現在）。
- ・ 論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・ 表彰論文選考に参画した。

② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・ 投稿規程等を全面的に見直し、2022 年 12 月から新投稿規程を適用。
- ・ 2016 年から 2021 年までの投稿・採択・査読日数を集計し、まとめたものを委員会報告として日本看護科学会誌に投稿。

(2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

議案書 13-14 頁に沿って説明があった。

① Japan Journal of Nursing Science (JJNS) の発刊

2004 年から発刊し、2014 年からはオンラインのみになり、今年 Vol.20 を発刊した。2023 年 1 月以降 9 月 30 日までの投稿論文数は 515 編で、例年とほぼ同じペースである。

表彰論文選考にも参画している。2022 年の Impact Factor は 1.7 で微増している。なお、2022 年の Impact Factor から小数点第一位までに変更になった。

② 迅速査読について

2020 年から実施しているが、9 月 30 日現在 35 編の迅速審査を実施している。2023 年は昨年より少し増えるのではないかと予測している。

③ 記念バッジの製作

発刊 20 周年記念事業として、バッジを作成。昨年の学術集会、EAFONS2023、その他関連学会で配布、今回の学会でも配布の予定。

④ JJNS セミナーの開催

JJNS セミナー Improving Your Success at Publishing in English 2023 : Social media to promote author's own paper は、どのようにして自分の論文をプロモートしていくかというところに焦点を当ててオンラインにて開催予定。期間が 2023 年 12 月 4 日から 2024 年 1 月 31 日となっていたが、演者の交代等があり、開始が 2023 年 12 月 13 日に変更となった。会員は無料なので、ぜひ参加いただきたい。

(委員会活動報告終了後に追加報告あり)

- ・JANS43にて交流集会「現代／未来の投稿者・査読者のための英語論文査読」を行う。また、明日・明後日と投稿コンサルテーションを行う。

(3) 表彰論文選考委員会 (有森直子理事)

議案書 14-15 頁に沿って報告があった。

① 表彰論文の選考

和文誌・英文誌から優秀賞・奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、推薦した。基準に則り、各編集委員会から審査対象論文 18 編 (和文 8 編、英文 10 編) の選定を受け、本委員会で優秀賞・奨励賞候補 6 編 (和文 3 編、英文 3 編) を審査リストとして作成。

さらに代議員にメールで採点を依頼した。回収率 63.7%、6 割を超えたところで終結し、優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定した。表彰式は明日の学会総会で行う。

② 学術集会演題表彰について (第 43 回学術集会)

演題表彰は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」の 4 賞で、選考は 2 段階で実施。第 1 段階は査読者による採点、第 2 段階は本委員会で最終選考を行う。決定した各演題表彰は、学術集会最終日に賞状と記念品を授与する場を設ける予定であり、後日 HP にも公開する。

(4) 研究・学術推進委員会 (吉永尚紀理事)

議案書 15 頁に沿って報告があった。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

2021 年度に採択された涌水理恵氏はすでに基盤研究 (A) に採択されているが、研究チーム構築支援として研究協力者の広報等をメールで行った。2022 年度に採択された土屋雅子氏は前期の委員を中心に研究計画および申請書への助言等を行い、今年度の基盤研究 (A) への申請を終え、結果を待っている状況。

② JANS セミナーの開催

第 22 回 JANS セミナー「激動する世界、変化する環境の中で研究者はどのように研究に向き合うか？」を 11 月 20 日まで Web 配信で行った。最終的な受講者数は 771 名であった。

③ 交流集会の実施

第 43 回学術集会において交流集会「地域と専門分野を越えて学び合うオンラインジャーナルクラブの活動紹介」を開催する。

④ オンラインジャーナルクラブの開催

2023 年 3 月 17 日にオンラインジャーナルクラブを開催し、84 名の参加があった。2024 年 1~2 月開催予定のオンラインジャーナルクラブに向けての企画を検討している。

その他の事業については資料をご参照いただきたい。

(5) 看護ケア開発・標準会委員会 (佐藤和佳子理事)

議案書 16 頁に沿って報告があった。活動報告としては、資料の 1・2 について説明。

2019年～2021年からの継続事業で、システマティックレビューやスコアリングレビュー等で若手研究者を支援しながら、開発した看護ケアについて標準化を促進するためにガイドライン等を作成し、還元できる仕組みづくりを目指す事業である。モデル事業として Minds 診療ガイドラインに準拠してその作成マニュアルに取り組み、現在も継続している。吉沢理事長の提示に基づき、JANS が果たす役割の道筋をつけるために日本看護系学会協議会 (JANA) や看護系専門学会との連携の在り方についての検討を計画している。詳細は6月以降にホームページで公表の予定。継続事業については「看護ケアのための便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」が9月に上梓され、JANS 会員に公開された。その他の継続案件、看護系学会との連携等については、次年度活動計画で報告する。

(6) 若手研究者活動推進委員会 (仲上豪二郎担当理事が欠席のため大久保暢子理事より報告)
議案書 16-17 頁に沿って報告があった。

① 委員会活動について

JANS 若手の会のホームページに掲載し情報発信を行っている。JANS 若手の会のメーリングリストにも情報発信を実施。現在若手の会の登録者数は 941 名 (2023 年 10 月現在) で、2023 年 3 月時点から増加している。

② 第 21 回 JANS セミナーの開催

オンラインにて「看護実践力を高める DX の今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用のヒントを学ぼう」を開催、受講者数は 989 名であった。

③ エリア検討会開催支援

全国の若手の会に入っているエリア・コーディネーターを横でつなぐことを目的としてエリア検討会の開催を支援した。支援の回数は 10 件であり、詳細は 17 頁のとおり。

④ 交流集会の実施

第 43 回学術集会で「若手研究者がともに拓く未来 ～論文執筆からアクセプトまでの経験値を共有しよう～」を行う予定。

⑤ 他学会とのコラボレーション

看護理工学会主催のワークショップを後援した。また、第 43 回学術集会で日本心理学会との合同シンポジウム「個体内比較によるケアエビデンスの創出：シングルケースデザインの挑戦」を実施する。

⑥ その他

日本学術会議より発出された DX に関する報告書作成に参画した。

(7) 国際活動推進委員会 (池田真理担当理事欠席のため吉沢議長より報告)
議案書 18 頁に沿って報告があった。

① 交流集会に実施

委員会企画として、第 43 回学術集会で交流集会「From Struggle to Success : 『若手研究者が海外留学するための助成』経験者から学ぶ」を開催する。

② 異文化看護データベース

以前より継続して検討中であるが毎月平均 300 回のアクセスがあり、データベースの積極的な更新を進めていく方針で進めている。執筆要領を作成し、2022 年 8 月に会員を対象に執筆者募集をした結果、24 件の応募を得た。委員会で検討し、13 개국およびイスラム教についての情報を更新している。

(8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

議案書 18-19 頁に沿って報告があった。

「JANSpedia」について

看護学学術用語の電子システムの普及促進を目的に 2022 年度に立ち上げた「JANSpedia」の会員への一層の周知のため適宜メール送信、ポスター配布も実施。ポスターは日本看護系学会協議会（JANA）、日本看護系大学協議会（JANPU）の協力も得て各大学、各学会への送付も行っている。また、公開されている学術用語の英語への翻訳を進めるなどグローバル化を図っている。

- ・ JANSpedia への新用語追加促進のための随時募集を実施。
- ・ 現在 100 用語掲載、公表されているが、新用語が常時追加できるような常時募集・常時審査できるようなシステムの構築を図っている。今年度 7 つの新用語の申請があり、現在審査を進めている。新用語の常時募集のため、ポスター、会員のメーリングリストにて広報を実施中。
- ・ JANSpedia サイト操作のマニュアルと審査システムのマニュアルを作成し、次期委員会や各担当者への統一した操作、公平な手続きができるように進めている。
- ・ JANSpedia の実装評価は、サイトの閲覧状況、用語の検索状況を分析し、持続可能性や有用性、掲載されている各看護学術用語の活用状況をデータ収集し、分析中である。

(9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

議案書 19 頁に沿って報告があった。

① 第 43 回学術集会市民公開講座について

一般市民を対象に、馬場良治先生（日本画家 選定保存技術保持者）の「文化財への科学的接近」を開催予定である。

② 「次世代研究者発掘育成プログラム」について

次世代の看護学研究者発掘・育成を目的に中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を立案、検討、実施をした。このプログラムは「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、広報サイトを立ち上げた。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として、看護学研究者のドキュメンタリー動画を作成・掲載し、さらに「看護学研究者として生きる」のサイトページでは 4 名の若手研究者のインタビュー記事を掲載した。他には国内の看護研究者はどのような仕事、どのような日常を送っているのか、国外の看護研究者との比較などの情報発信も行っている。資料に URL を掲載しているので参照いただきたい。併せて、中高生を対象にしているため、Instagram も開設し情報発信を行っている。

- ・ 次世代研究者発掘育成プログラムの実装評価については現在検討中。

③ その他

オンラインジャーナルクラブの計画案の検討・試行については、研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会と合同で検討・試行を行った。

(10) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

議案書 19-20 頁に沿って報告があった。

① 本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善について

ここ 1 か月程度 Google Chrome や Edge でホームページにアクセスできない状況があったが、現状はサーバー交換により完了している。今後はよりスムーズになるよう委員会で検討する予定である。不具合等あれば申し出いただきたい。

② 学術集会広報について

田中マキ子学術集会会長の協力もあり、プレスリリースの作成・配布、市民公開講座の広報活動など、今も行っているところである。

③ 委員会成果物の公表：引き続き実施。

④ マスコットキャラクターについて

ジャンとスウはいつでも活用いただけるよう、ホームページ上で公開している。今回の学術集会でも活用いただいております、周知が進むと期待している。

⑤ その他、広報について

デジタル広報の推進として Facebook を更新しており、理事会毎に理事長からの言葉も掲載しているので、ぜひアクセスいただきたい。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

議案書 20 頁に沿って報告があった。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止についての啓発活動、看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案の検討を目標に、第 42 回学術集会で交流集会「SDGs×看護学・研究・倫理」を企画し実施した。Davidson 博士の SDGs と看護学に関する講演動画は翻訳のうえ学会ホームページに掲載した。
- ・研究倫理に関し、在り方を検討する必要性について理事会に報告した。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

議案書 20-21 頁に沿って報告があった。

- ・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮った。
- ・学術集会における利益相反申告システムの導入をオンラインで行いたいと考え、検討を行った。

(13) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

議案書 21 頁に沿って報告があった。

- ・2023 年度は外部機関より問い合わせがあり対応した。会員からは 1 件の申請があり審査を行っている。

(14) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

議案書 21 頁に沿って報告があった。

- ・昨年度調査を行った「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」について、さらに分析、また英訳して本学会英文誌に投稿する準備を行っている。
- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに委員が参加し、必要な災害看護支援や研究課題に関して情報収集し、会員に提供している。
- ・今期に入り、今後緊急調査を行う必要が出てくる可能性があることから、対象や方法について現在検討中である。支援策の検討にもつながることを期待している。

(15) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事欠席のため吉沢議長より報告）

議案書 21-22 頁に沿って報告があった。

- ・2023 年は 9 月現在 1 件の申請があり、資料に挙げているとおり海外留学についての助成を決定した。
- ・2023 年 8 月の委員会から 10 月の理事会にかけて助成金額の改訂が行われ承認された。その後 1 件の申請があり、新しい助成金額での審査・採択がなされた。（海外学術集会への参加）

(16) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

議案書 22 頁に沿って報告があった。

- ・新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検および改正内容を検討した。
- ・定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討をした。

(17) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

議案書 22-23 頁に沿って報告があった。

本委員会は COVID-19 の状況下で JANS として何ができるのかを実践するために、時限的（2～3 年）な活動をすることを目的に理事会で承認され設置された。特に看護学研究者がどのような影響を受けているか、2 回調査を行っている。2023 年は以下の事業を行った。

- ・1 回目調査（2020 年 7 月～8 月）で行った調査の分析、論文執筆に関する学会主導型研究プロジェクトの成果について、2023 年は新たに 2 件公開され学会ホームページに掲載した。
- ・第 2 回調査（2022 年 3 月 1 日～3 月 31 日）についても、新たに分析・論文執筆を行う研究プロジェクトとして 4 チームを構築した。2024 年 3 月末までに論文投稿することを目指し分析作業を行っている。
- ・1 回目・2 回目調査で得た量的データは、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託した。寄託し公開されることで研究センターのホームページから申請することが可能となり、学会会員だけでなく大学等研究機関に勤めていれば、誰でもこのデータ分析ができることになる。公開は少し後ろ倒しで、今月中（2023 年 12 月）、遅くとも 1 月までには公開される予定である。

(18) 総務委員会（田村敦子理事）

議案書 23 頁に沿って報告があった。

- ・入会審査、会員管理の実施について

2023 年 10 月までの入会審査数は 794 名であった。

- ・学会事務所の運営について

COVID-19 が蔓延した時期は在宅勤務も取り入れたが、5 月の 5 類感染症移行後は事務所出勤主体へと変更している。なお、引き続き、在宅勤務は可能としている。

(19) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事欠席のため、大久保暢子理事より報告）

議案書 23 頁に沿って報告があった。

- ・2023 年度の採択案の作成と理事会承認を受けた。

- ・2023 年度助成事業採択者への助成金支給を実施した。助成の種類としては、正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成、正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成の 2 つである。

- ・検討事項としていた『所属先があり所得がある大学院生・ポストドクター』も対象とすることで理事会承認を得た。また、次年度の指定課題研究助成の課題を決定した。

- ・2024 年度の募集要項により募集を行った。2023 年 10 月 28 日に締切り、現在選考中である。

(20) 選挙管理委員会（田口敦子理事）

議案書 23-24 頁に沿って報告があった。

手順に則って選挙活動を実施した。

① 2023 年選出代議員選挙

2023 年 1 月 16 日から 29 日に電子投票を実施、1 月 30 日の第 3 回選挙管理委員会にて開票と当選通知の郵送、2 月 27 日に第 4 回選挙管理委員会にて代議員名簿の作成と理事会への報告を実施した。

② 2023 年選出役員候補者選挙

2023 年 3 月 3 日に公示文書を学会ホームページに公開。3 月 13 日から 26 日に電子投票を実施、3 月 27 日の第 5 回選挙管理委員会にて開票と当選通知の郵送、4 月 24 日の第 6 回選挙管理委員会にて役員名簿を作成し、5 月 19 日の第 1 回理事会にて選挙報告とともに役員名簿を提出、承認された。

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（西村ユミ副理事長）

議案書 24 頁に沿って報告があった。

- ・2023 年 6 月 10 日に総会が開催され、出席した。報告事項および審議承認事項は資料のとおり。

- ・一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2023 年 1 月以降 3 名の会員を個別調査部会員に推薦した。2016 年度から 51 名の会員を推薦している。

第 43 回学術集会において「看護学から学術の危機と発展を考える」共催シンポジウムに登壇者を

推薦し合同で参加する予定である。

②看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

議案書 24 頁に沿って報告があった。

- ・看保連 2023 年研究助成推薦について本会から 3 名の応募があり、社会貢献委員会で審査し 2 名を承認した。

③日本学術会議（西村ユミ副理事長）

議案書 24 頁に沿って報告があった。

④その他の機関（西村ユミ副理事長）

議案書 24 頁に沿って報告があった。

- ・第 43 回学術集会において、日本心理学会との合同シンポジウム、日本薬理学会との合同シンポジウムの実施を予定している。

【質疑】なし

VI. 審議事項

第 1 号議案「2024 年度事業計画（案）の承認」について

議案書 25-30 頁に基づき、各担当理事より以下の説明があった。

(I) 学術集会（田口敦子理事）

- ・第 44 回日本看護科学学会学術集会
学術集会会長：前田ひとみ（熊本大学）
開催日程：2024 年 12 月 7 日（土）・8 日（日）
開催場所：熊本城ホール、熊本市民会館等
- ・第 45 回日本看護科学学会学術集会
学術集会会長：有森直子（新潟大学）
開催日程：2025 年 12 月 6 日（土）・7 日（日）
開催場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
- ・第 46 回日本看護科学学会学術集会
現在準備中

(2) 和文誌編集委員会（井上智子理事欠席のため吉沢議長より説明）

議案書 25 頁に沿って説明があった。

- ・日本看護科学会誌 44 巻を発行する。
- ・2020 年度に行った迅速審査制度、著者要件変更の評価の実施、必要であれば投稿規程、査読ガイドラン等の改訂を行う。
- ・学会誌への投稿促進、掲載数増加を図り、編集委員・査読者の活動を支援する教育活動の実施等を行う。

(3) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

議案書 25 頁に沿って説明があった。

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.21 を発行する。
- ・ 学術集会など JANS 関連行事にてプロモーション活動を行う。
- ・ JJNS セミナー2024 を開催する。
- ・ インパクトファクター向上を念頭に置いた戦略の構築を検討する。
- ・ 迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムの整備を行う。

(4) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

議案書 25 頁に沿って説明があった。

今年度同様 3 つの活動を柱に行う。

- ・ 表彰論文の選考を行い、優秀賞・奨励賞を公表する。
- ・ 学術集会における演題の選考を行い、演題表彰を実施する。
- ・ 他機関からの表彰の推薦依頼に関し候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

議案書 26 頁に沿って説明があった。

事業は今年度からの継続であり、同様に行っていく予定である。

- ・ 会員の研究の支援として、科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクトを継続する。オンラインジャーナルクラブも継続して行う予定。ただし、昨年度は若手研究者活動推進委員会、社会貢献委員会と合同で企画したが、次年度からは当委員会単独で行う。
- ・ JANS セミナーの企画・開催、学術集会での交流集会の企画・開催等も引き続き行う。また、その他、研究、学術推進に関する事業についての企画と検討を引き続き行う。

(6) 看護ケア開発・標準会委員会（佐藤和佳子理事）

議案書 26 頁に沿って説明があった。

- ・ 2024 年は看護ケアガイドライン「高齢者尿失禁看護ケアガイドライン（仮称）」の最終名称、書式等を決定し、草案を公開する予定である。さらにシステマティックレビューチームでは、生活指導をテーマとして理事の山川みやえ副委員長も参画し、スコーピングレビューを完成し投稿する予定。
- ・ JANS と他学会との連携も探索的ではあるが、検討を続けていきたい。

(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事欠席のため、大久保暢子理事より説明）

議案書 26 頁に沿って説明があった。

- ・ エリア・コーディネーター会議を積極的に実施し、エリアごとに様々な発信を行うことで、全体で実施することの明確化とエリア・コーディネーターの連携を強化する。
- ・ エリア別活動の活性化のための支援を実施。
- ・ 学術集会での交流集会の企画・運営を推進する。
- ・ 日本心理学会との連携強化のための活動の実施。
- ・ 若手研究者活性化のための広報活動の充実。

- ・学生会員増および JANS 活動参画への具体的な方法を検討（他委員会との協力）。
- ・若手ネットワーク活性化のための交流方法を検討する。
- ・若手研究者向けセミナーシリーズの企画・開催の検討と実現を目指す。

（8）国際活動推進委員会（池田真理理事欠席のため、吉沢議長より説明）

議案書 26-27 頁に沿って説明があった。

- ・国際学会研究発表の増加施策としてセミナー等の企画や運営を行う。
- ・国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と共同で実施する。
- ・海外学術団体との交流活動の実施。
- ・JANS ホームページ内「異文化看護データベース」更新の実施。

（9）看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

議案書 27 頁に沿って説明があった。

- ・JANSpedia に掲載する新しい看護学学術用語を随時募集・審査するシステムを整備し、JANSpedia の実装を促進、実装評価と修正を継続する。
- ・既存の 100 の看護学学術用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、JANSpedia の更新を行う。
- ・JANSpedia の英語版を完成させ、日本で検討された看護学学術用語をグローバルに配信し、実装と評価を行う。

（10）社会貢献委員会（大久保暢子理事）

議案書 27 頁に沿って説明があった。

- ・第 44 回学術集會にて市民公開講座を開催する。
- ・次世代看護学研究者発掘・育成プログラムとして、サイトの更新・中高生との交流会を開催し、看護学研究者候補となる次世代に対する社会貢献事業の実装と評価を実施する。
- ・市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を行う。

（11）広報委員会（西村ユミ副理事長）

議案書 27 頁に沿って説明があった。

- ・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を実施する。
- ・学術集會の広報、周知活動を継続して行っていく。
- ・開設した Facebook や YouTube などを活用し、会員への電子的広報を進める。
- ・マスコットキャラクター（ジャンとスウ）を活用した広報活動の推進を行う。
- ・「看護研究の玉手箱」では高校生や一般市民に向けた表彰論文の公開、紹介を行うことで看護学の周知を進める。
- ・WANS（世界看護科学学会）の活動に関する広報や周知の検討を行う。

（12）看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

議案書 27-28 頁に沿って説明があった。

- ・看護学に関連する「倫理的課題のある社会事象」に対する情報収集と対応案を検討し、本委員会で取り組む課題を明確にする。
- ・研究倫理の遵守および研究活動不正防止啓発活動として、第 44 回学術集会の交流集会での企画を進める。

(13) 利益相反委員会（山本則子理事）

議案書 28 頁に沿って説明があった。

- ・関係者を対象とした COI を継続する。
- ・学術集会発表者を対象とした利益相反申告システムの導入を進める。
- ・その他、状況に応じて指針・細則・申告書の修正・更新を行う。

(14) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

議案書 28 頁に沿って説明があった。

- ・従来のとおり、申請がありしだい倫理審査を行う。
- ・新たな働き方をしている看護職への支援や、倫理審査に関する利益相反委員会との連携も検討する。

(15) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

議案書 28 頁に沿って説明があった。

- ・災害に関するセミナー・シンポジウム、講演会への参加と情報の発信を引き続き行う。
- ・研究調査の準備、体制の構築と実施への検討を行う。
- ・災害看護支援に関する交流集会等の企画・運営を検討する。

(16) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事欠席のため、吉沢議長より説明）

議案書 28 頁に沿って説明があった。2024 年度の募集を引き続き行う。

- ・国際学会発表への助成は随時応募を受付し積極的に行っていく。
- ・海外留学への助成は、2024 年度中に開始される海外留学への助成を行う。

(17) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

議案書 29 頁に沿って説明があった。

- ・既存の各種規則や申し合わせがその他の規則関連と整合性があるのかの確認を行う。新規事業に伴う新たな各種申し合わせと内規、定款、定款施行細則との整合性についても点検し、修正点を洗い出す。
- ・定款の改正の必要性の検討を行う。
- ・委員会の機能として統廃合が必要ではないかとの意見もあり、統廃合も視野に委員会としての活と定款との整合性を検討する。
- ・その他、随時規則類の見直しを行う。

(18) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

議案書 29 頁に沿って説明があった。

- ・第 2 回調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを継続。
- ・第 1 回・第 2 回データについて、東京大学社会科学研究所附属調査・データアーカイブ研究センターに寄託されたデータが公開されたら、二次利用活用を促進する。

(19) 総務委員会（田口敦子理事）

議案書 29 頁に沿って説明があった。

引き続き JANS 事務所の運営と入会審査を行う。

議案書に挙がっている内容のうち、特に下の 2 点について検討する。

- ・入会資格基準について課題を明確にして検討する。
- ・学生会員の創設について検討していく。

(20) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事欠席のため、大久保暢子理事より説明）

議案書 29-30 頁に沿って説明があった。

- ・2024 年助成金実施事業の確認。
- ・2025 年度の募集に関して検討。募集期間は 2024 年 8～10 月を予定。選考委員会の開催は 2024 年 12 月～2025 年 1 月を予定。

(21) 選挙管理委員会（田口敦子理事）

議案書 30 頁に沿って説明があった。

- ・2 年に 1 回の 2025 年選出理事候補者選挙準備をすすめる。

(22) 他機関との連携

①日本看護系学会協議会（西村ユミ副理事長）

- ・引き続き連携を強化して進めていく。

②看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・診療報酬に対する情報収集を継続し、診療報酬に対して JANS としてどう関わるかを検討していく。
- ・看保連からのセミナー等の開催案内を JANS 会員に情報発信していく。

③日本学術会議（西村ユミ副理事長）

- ・現在大きな動きがある。第 25 期から推薦会員 6 名の承認がされないまま今年の 10 月から第 26 期が始まっている。このことに関する情報収集を行うとともに、関連情報を、ホームページ等で共有する。

④その他の機関（西村ユミ副理事長）

- ・日本心理学会や日本薬理学会との共同シンポジウムが予定されているが、この仕組みについて検討を進めていく。

<質疑応答・意見>

- ・学会運営については多岐にわたる活動を進めていただき感謝している。世界看護科学学会（WANS）に関して質問がある。議案書 27 頁に広報委員会として「WANS に関連した広報について検討する」と出されている。日本看護科学学会は WANS のメンバー団体であるため、世界看護科学学会の運営にも携わっているはずである。WANS の運営支援などの活動内容が事業計画に出てきてもよいのではないか。その意味においては、2023 年度の活動内容の中で WANS との活動に関して一切触れていない。平常時の運営にも携わっていることを入れてもよいのではないか。そうすることで、自分たちも WANS の会員なのだと認識しやすいと思う。

確か、WANS は今年、理事長選を行っているはずであり、その報告もない。通常 WANS は 2 年に 1 回学会が開催されており、前は 2022 年の台湾開催、2024 年度の開催予定について情報があれば周知いただくとありがたい。（山本社員）

- ・今年度から WANS メンバー団体として JANS 代表である理事長の名前が載っている。11 月 21 日に今年度の WANS の理事会が開催されたが、自分は参加できなかったため、JANS からは国際活動推進委員会の池田委員長に参加してもらい、理事会での内容は報告を受けている。今まで WANS 理事長の Tassana Boontong 先生がこの 12 月で任期終了し、現在選挙中とのこと。それぞれの団体から推薦を受けて候補者は現在 3 名で結果がまだ出ていないと聞いている。JANS としても推薦は行っている。なお、2024 年度の WANS 大会はインドネシアで行われる予定。今後 WANS に関してもホームページ等で会員に周知していきたい。（吉沢理事長）

議長はその他、意見や質問を促したが他に質問はなく、上記 WANS に関する内容を付け加えることで、「2024 年度事業計画（案）」は賛成多数で承認された。

第 2 号議案「2024 年度予算（案）の承認」について

会計担当の萱間真美理事より議案書 31-35 頁に沿って説明があった。

なお、32 頁から 33 頁に※で内容の詳細を説明している。

31-33 頁「2024 年度事業活動収支予算書（案）」は前項で承認いただいた事業関連と委員会毎の予算案になる。34-35 頁「2024 年度収支予算書（案）」は公益社団法人として会計基準に合ったものになる。本日は 31-33 頁までの事業活動収支予算書について説明する。※と番号が振ってある箇所については 32-33 頁に説明があるので参照いただきたい。

「I. 事業活動収支の部」のうち、「1. 事業活動収入」について、「①会費収入」は 105,250,000 円を見込んでいる。うち、正会員の会費収入は 105,000,000 円としている。2024 年 4 月 1 日時点での会員数を 10,400 名、新規入会・再入会 800 名、資格喪失者 700 名と見積もっている（※1）。賛助会員会費収入は 250,000 円（※2）。「②公益目的事業収入」は 48,276,000 円を見込んでいる。中身としては学術振興事業（セミナー等）収入、学会誌事業収入、学術集会事業収入などを含む。「③収益事業等収入（広告販売収入）」は 9,647,000 円を見込んでいる。こちらには学術集会時の企業展示出展料、広告掲載料、ランチョンセミナーなどが含まれている。「④法人会計収入」は 951,000 円を計上、こちらは懇親会（学術集会）などを含んでいる。以上、事業活動収入の合計は、164,124,000 円を見込んでいる。右欄の 2023 年度と比べ 4,090,000 円の増額となっている。

次に、「2. 事業活動支出」について、「①公益目的事業支出」は 127,684,000 円を計上している。うち、

学術振興事業支出は委員会毎に記載している。このうち 2023 年度予算と比較して 50 万円以上の増減があるものに関して詳しく述べる。「研究・学術推進委員会費支出」353,000 円で 801,000 円の減額である。事業は継続して行うが、運営方法の見直しにより経費の減少を見込んでいる（※9）。「看護ケア開発・標準化委員会支出」2,960,000 円で 6,560,000 円の減額である。2024 年度はガイドライン作成の準備期間となるため印刷製本費、郵送費などが減少している（※10）。「若手研究者活動推進委員会費支出」は新たな若手向けセミナーの企画、運営で 1,031,000 円の増額となっている（※11）。「若手研究者助成金支出」は 7,000,000 円で 2,000,000 円の増額となっている。助成金額見直しで結果予算額も昨年度より増えている。この金額は若手研究者助成資金の積み立てから取り崩して充当する（※13）。「和文誌編集費支出」は 14,544,000 円で 2,259,000 円の増額となっている。投稿論文の増加、会員外の共著および迅速査読により、投稿論文の更なる増加と編集作業の増加が見込まれる（※16）。「英文誌編集費支出」は 22,870,000 円で 1,025,000 円が編集事務費見直しのため増額となっている（※17）。「受賞論文表彰費支出」は 1,439,000 円で 786,000 円の増額となった。次年度は隔年で作成している表彰用ホルダー等の作成年にあたっている（※18）。「JJNS セミナー開催費」は 753,000 円で、委託費等の見直しを行い開催費が縮小した結果 697,000 円の減額となった（※19）。「学術集会費支出」については「当年度開催学術集会」762,000 円の減額（※20）、「次年度開催学術集会」845,000 円の減額（※21）となっている。

「②管理費支出」について、「②管理費支出」は 73,213,000 円を見込んでおり、2023 年度と比較して 5,577,000 円増加している。うち、「給料手当支出」3,382,000 円、「福利厚生費支出」735,000 円の増額で、いずれも正職員 1 名を増員するため増えている。事務所職員の年齢構成等も考慮し、将来への業務の継続を見据えた対応である（※23）。「社員総会費」は 4,625,000 円で 695,000 円の増額となっている。オンラインから対面で行うことができるようになったため増額している（※26）。

「③その他支出」が 2,200,000 円で、「①公益目的事業支出」「②管理費支出」と併せると、「事業活動支出合計」が 203,097,000 円となり、収支の差額はマイナス 38,973,000 円となる。大きな赤字という印象があるかと思うが、公益社団法人は事業収入を上回って留保をしないことが求められていること、一部、例えば若手研究者助成などは別途積立てている資金から支出とするというのもあり、これまでも赤字で予算を立てていることもあった。しかし学会は健全に運営されている。

<質疑応答・意見>

第 2 号議案について、

- ・先ほど、収支の赤字額は問題ないとのことで、おそらく積み立て分などを回して調整していると予想するが、積み立て分はどのくらい余幅があるのか。毎年 3,800 万円や 3,900 万円などの赤字になるような状況は予算案に見えないものから相殺されていると思うが、そのあたりをもう少しご説明いただきたい。（坂下社員）
- ・3,800 万円すべてが積み立てからというわけではない。また、予算案は委員会でそれぞれ活動計画を立てて積み上げた支出計画になっているが、実際の執行はすべて満額決算になっているわけではなく、概ね 50～60%の執行金額になっている。積み立ての残高については、決算で金額を見ていただくことになるため、予算の審議とは別の話であると考えている。（萱間理事）
- ・昨年度のバランスシートの実際はどうなのか。（坂下社員）
- ・昨年度に関しては、6 月の社員総会で決算を承認いただいている。ホームページで公開しているのでそちらで確認いただきたい。本日は決算資料を持参していないので詳細については説明できない。理

解いただきたい。(萱間理事)

議長はその他、意見や質問を促したが他に質問はなく、「2024 年度予算(案)」は賛成多数で承認された。

第 3 号議案「第 46 回学術集会会長の承認」について

- ・吉沢議長より議案書 37 頁に沿って説明があった。
- ・2026 年度第 46 回日本看護科学学会学術集会会長候補者として、東京都立大学の西村ユミ先生を推薦する。しばらくオンライン開催が続く、このところの学術集会は去年の広島、今年の山口、来年の熊本、その次の新潟という地方開催であるため、一度関東に戻すのもよいのではないかと判断し、東京都立大学の西村先生を推薦した。

議長は意見や質問を促したが特に無く、「第 46 回学術集会会長」は賛成多数で承認された。

- ・承認を受け、西村ユミ第 46 回学術集会会長（現理事会副理事長）より、以下の挨拶があった。
ただいま第 46 回学術集会会長を拝命した。久しぶりの東京開催でもあり、また 3 年経つと世の中、社会が変わっているかと思うが、学術集会の開催の仕方などもその時代にふさわしい方法を検討していきたいと考えている。
- ・以上で社員総会の全プログラムが終了した。議長はその他や意見や質問を会場に問うが、特になかった。

VII. 閉会

司会の西村ユミ副理事長より、後から参加した人を含め、有効委任状・議決権行使を含め出席者数は 303 名であることが報告され、その後、閉会が告げられた。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する

2024 年 2 月 21 日

議長 吉沢 豊子子 ⑩

議事録署名人 野間口 千香穂 ⑩

議事録署名人 藤野 あゆみ ⑩

公益社団法人日本看護科学学会 2023年12月社員総会 議案書

日 時 2023年12月8日(金) 17:00~19:00

場 所 海峡メッセ下関 海峡ホール(国際貿易ビル9階)

〒750-0018 山口県下関市豊前田町3丁目3-1

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第43回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 2024年度事業計画(案)の承認

第2号議案 2024年度予算(案)の承認

第3号議案 第46回学術集会会長の承認

VII. 閉 会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 吉沢 豊予子

副理事長 西村 ユミ

理事：有森 直子、池田 真理、井上 智子、大久保 暢子、鎌倉 やよい、
萱間 真美、グレッグ 美鈴、佐藤 和佳子、田口 敦子、仲上 豪二郎、
山川 みやえ、山本 則子、吉永 尚紀

監事：井部 俊子、数間 恵子

名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、今村 節子、氏家 幸子、金川 克子、川嶋 みどり、
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、小山 真理子、近藤 潤子、島内 節、
新道 幸恵、中島 紀恵子、中村 恵子、林 滋子、林 優子、菱沼 典子、
松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2023年10月31日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第43回学術集会会長 第44回学術集会会長 第45回学術集会会長

田中 マキ子

前田 ひとみ

有森 直子

社員

【北海道】

青柳 道子
上田 泉
河口 てる子
川村 三希子
今野 美紀
定廣 和香子
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
鷺見 尚己
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
三国 久美
山田 律子

【東北】

アングアホッフ
ア 司寿子
安齋 由貴子
安保 寛明
大森 純子
角濱 春美
金子 さゆり
菅野 恵美
小林 淳子
坂本 祐子
佐藤 富美子
佐藤 和佳子
塩飽 仁
高橋 和子
高橋 有里
鄭 佳紅
中村 康香
福島 裕子
藤田 あけみ
布施 淳子
吉沢 豊予子
【関東A】
栗生田 友子
安梅 勅江
飯岡 由紀子
池内 彰子
牛久保 美津子
大澤 真奈美
岡 美智代
恩幣 宏美
角田 直枝

金泉 志保美
上山 真美
國清 恭子
近藤 由香
齋藤 基
清水 裕子
鈴木 幸子
高井 ゆかり
成田 伸
野崎 真奈美
橋本 晴美
東 めぐみ
堀越 政孝
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
山下 暢子
吉田 久美子
涌水 理恵
【関東B】
有本 梓
池崎 澄江
石井 邦子
石丸 美奈
岡田 忍
小黒 道子
落合 亮太
数間 恵子
勝山 貴美子
叶谷 由佳
川名 るり
黒田 久美子
斉藤 しのぶ
酒井 郁子
櫻井 しのぶ
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
茂野 香おる
島袋 香子
清水 準一
諏訪 さゆり
高橋 良幸
谷口 千絵
谷本 真理子
田母神 裕美
中山 登志子
別府 千恵

水戸 優子
宮崎 美砂子
宮芝 智子
宮本 千津子
宮脇 美保子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邊 千登世
【東京A】
麻原 きよみ
五十嵐 歩
池田 真理
井部 俊子
大久保 暢子
大田 えりか
奥 裕美
小山田 恭子
片岡 弥恵子
北村 言
坂本 すが
佐々木 美奈子
習田 明裕
鶴若 麻理
仲上 豪二朗
中山 和弘
西村 ユミ
林 直子
春名 めぐみ
宮本 有紀
麦田 裕子
山本 則子
吉岡 京子
米澤 かおり
【東京B】
秋山 正子
池亀 俊美
井村 真澄
井本 寛子
江本 リナ
岡谷 恵子
小川 久貴子
小澤 三枝子
萱間 真美

川原 由佳里
来生 奈巳子
草間 朋子
小林 信
坂井 志麻
佐藤 正美
田中 孝美
筒井 真優美
寺岡 征太郎
野末 聖香
濱田 由紀
福井 トシ子
藤田 淳子
本田 彰子
三浦 英恵
森 千鶴
森 真喜子
矢ヶ崎 香
矢富 有見子
【甲信越】
浅野 美礼
有森 直子
内山 美枝子
小林 康江
坂井 さゆり
下里 誠二
竹内 幸江
谷口 珠実
中込 さと子
八尋 道子
山崎 章恵
渡辺 みどり
【北陸】
稲垣 美智子
大江 真琴
大乗 麻由美
表 志津子
加藤 真由美
川島 和代
紺家 千津子
多崎 恵子
田中 浩二
牧野 智恵
四谷 淳子
【東海】
秋山 智弥
浅野 みどり

安藤 詳子
市江 和子
宇城 令
大石 ふみ子
大島 千佳
大島 弓子
大津 廣子
岡田 摩理
片岡 純
片岡 三佳
片山 はるみ
鎌倉 やよい
木戸 芳史
小松 万喜子
坂本 真理子
佐藤 一樹
佐藤 直美
篠崎 恵美子
白尾 久美子
白鳥 さつき
高植 幸子
玉田 章
辻川 真弓
新家 一輝
野口 眞弓
服部 淳子
原沢 優子
藤井 徹也
藤野 あゆみ
操 華子
箕浦 哲嗣
百瀬 由美子
山田 聡子
脇坂 浩
渡井 いずみ
渡邊 順子
【近畿A】
青山 ヒフミ
赤澤 千春
東 ますみ
荒尾 晴恵
池田 清子
池西 悦子
井上 智子
ウィリアムソン 彰子
上野 昌江

内 正子
宇都宮 明美
大野 かおり
大野 ゆう子
勝原 裕美子
加藤 令子
神崎 初美
北村 愛子
久米 弥寿子
グライナー 智恵子
河野 あゆみ
小西 美和子
近藤 麻理
坂下 玲子
鈴木 志津枝
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
高見沢 恵美子
田中 京子
玉木 敦子
都筑 千景
二宮 啓子
林 千冬
武用 百子
細田 泰子
前川 幸子
宮脇 郁子
森 菊子
安酸 史子
山川 みやえ
山崎 あけみ
山本 あい子
【近畿B】
吾妻 知美
荒川 千登世
糸島 陽子
伊波 早苗
上野 栄一
荻田 美穂子
片山 由加里
黒江 ゆり子
竹之内 沙弥香
田村 恵子
當日 雅代
奈良間 美保
任 和子

野島 敬祐
本田 可奈子
光木 幸子
毛利 貴子
吉岡 さおり
【中国・四国】
金岡 麻希
神里 みどり
木下 由美子
倉岡 有美子
グレッグ 美鈴
黒田 裕美
末次 典恵

吾郷 美奈恵
畦地 博子
井伊 久美子
池添 志乃
石橋 照子
市原 多香子
伊東 美佐江
今井 多樹子
岩佐 幸恵
大川 宣容
大平 光子
岡田 淳子
折山 早苗
久保田 聰美
黒田 寿美恵
佐伯 由香
陶山 啓子
高瀬 美由紀
田中 愛子
田中 マキ子
谷垣 静子
田村 由美
永井 眞由美
中野 綾美
名越 恵美
野嶋 佐由美
原 祥子
百田 武司
深井 喜代子
深田 美香
松本 啓子
森下 安子
森本 美智子
山勢 博彰
山田 覚

竹熊 千晶
田中 美智子
谷口 初美
藤内 美保
中尾 久子
野間口 千香穂
橋口 暢子
鳩野 洋子
花田 妙子
濱田 裕子
平野 かよ子
藤野 成美
藤野 ユリ子
増満 誠
益守 かづき
三重野 英子
三橋 睦子
宮園 真美
宮林 郁子
村田 節子
分島 るり子

以上、340名
地区別
五十音順

【九州・沖縄】
穴井 めぐみ
飯野 英親
江藤 宏美
尾形 由起子

(2023年10月31日現在)

総務報告

1. 会員推移 (2023年4月1日～2023年10月22日)

1) 正会員数増減

①2023年4月1日正会員数

9531名 = 2023年3月31日正会員数10243名 - 2023年度資格喪失者712名

(自主退会435名、会費未納277名)

②2023年度の入会者

789名 = 新規入会702名 + 再入会87名

③2023年度の死亡喪失者

正会員1名 名誉会員1名 (樋口 康子先生)

④会員区分の変更

3名 正会員から名誉会員 (下記3) の承認数)

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員

承認 3名

4) 2023年10月22日現在 会員数

正会員 10,316 ※4月1日正会員数+入・再入会数-会員区分変更数-正会員死亡喪失者数

名誉会員 21

賛助会員 4

会員総数 10,341

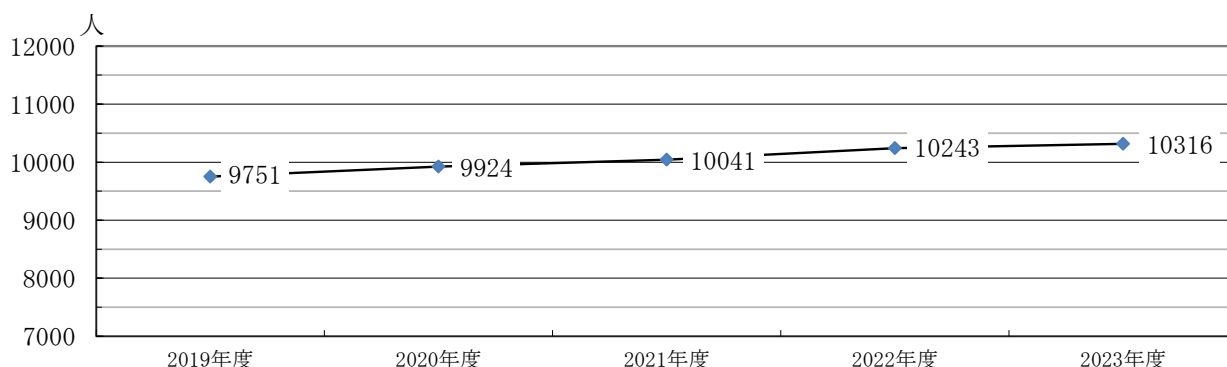
2. 地区別正会員数 (2023年10月22日 会員数10,316)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	417	北陸	富山	95	九州・沖縄	福岡	507	
				石川	179		佐賀	56	
東北	青森	130	東海	福井	72		長崎	72	
				岩手	86		静岡	201	
				宮城	182		愛知	591	
				秋田	66		岐阜	194	
				山形	59		三重	162	
				福島	57		近畿 A	大阪	687
関東 A	茨城	151	近畿 B	兵庫	567		宛先不明者		37
				栃木	127		滋賀	113	合計
				群馬	175	京都	273		
関東 B	千葉	586	中国・四国	奈良	107	中国・四国	鳥取	45	
				神奈川	634		和歌山	68	島根
東京 A	※1	707	中国・四国	岡山	180		山口	87	
				東京 B	※2		833	広島	298
甲信越	新潟	122						1032	香川
				長野	145		高知		132
				山梨	82				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2023年4月1日～2023年12月8日)

2023年度第1回理事会

日時：2023年5月19日（金）13：00～15：00

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事15名、監事2名、第43回学術集会会長、選挙管理委員会委員長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 選挙報告
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年6月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 表彰論文選考委員会
 - 4) 研究・学術推進委員会
 - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
 - 6) 若手研究者活動推進委員会
 - 7) 国際活動推進委員会
 - 8) 看護学学術用語検討委員会
 - 9) 社会貢献委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 看護倫理検討委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援委員会
 - 15) 若手研究者助成選考委員会
 - 16) 会則等委員会
 - 17) COVID-19看護研究等対策委員会
 - 18) 研究助成選考委員会
 - 19) 総務委員会
 - 20) 他団体との連携について

- ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の団体
6. 入会希望者の承認
 7. その他

2023 年度第 2 回理事会

日 時：2023 年 6 月 18 日（日）10：00～11：30

場 所：AP 東京八重洲 11 階 Room O （〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

出席者：理事 12 名、監事 2 名

〈審議事項〉

1. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第 44 回日本看護科学学会学術集会（JANS44）企画委員名簿の提出
3. 総務会から 2021-2022 年度活動・評価報告書について
4. 2023 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
5. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. 入会希望者の承認
7. その他

2023 年度臨時理事会

日 時：2023 年 6 月 18 日（日）15：30～16：00

場 所：AP 東京八重洲 11 階 Room O （〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

出席者：理事 13 名、監事 1 名

〈審議事項〉

1. 理事長（代表理事）、副理事長の承認

2023 年度臨時理事会

日 時：2023 年 7 月 10 日（月）13：00～14:45

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14 デイアモンドビル 6 階）

出席者：理事 12 名、監事 2 名 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 学術集会について

2. 今期理事会方針について
3. 会務分掌および委員の承認
4. 2023年度各委員会予算・執行状況
5. 各委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. その他

2023年度第3回理事会

日時：2023年9月5日（火）13：00～15：15

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事15名、監事2名、第43回学術集会会長（代理）、第44回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年12月社員総会と第43回学会総会について
5. 会計報告（各委員会予算執行状況）
6. 各委員会からの報告および審議事項
7. 入会希望者の承認
8. その他

2023年度第4回理事会

日時：2023年10月26日（木）13：00～16：03

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事13名、監事2名、第43回学術集会会長、第44回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年12月社員総会の議案の承認
5. 会計報告（2023年度各委員会予算執行率・予算執行状況）

6. 各委員会からの報告および審議事項
7. 入会希望者の承認

2023 年度第 5 回理事会

日 時：2023 年 12 月 8 日（金）14：00～16：00（予定）

場 所：海峡メッセ下関（予定）（〒750-0018 山口県下関市豊前田町 3 丁目 3-1）

出席者：理事 15 名、監事 2 名（予定）

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2023 年 12 月社員総会の資料と進行の確認
3. 第 43 回学会総会の資料と進行の確認
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

公益社団法人日本看護科学学会 2023-2024年度委員会名簿

※所属機関名は2023年10月31日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長 編集長 編集長	井上智子	大阪大学大学院
		勝山貴美子	横浜市立大学大学院
		瀬戸奈津子	関西医科大学
		青柳道子	札幌医科大学
		安齋由貴子	宮崎県立大学
		飯岡多香子	香川県立大学
		大澤真奈美	群馬県立健康科学大学院
		大山大裕美	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
		荻田美穂子	滋賀医科大学
		沖中由美	岡山大学大学院
		小澤未緒	広島大学大学院
		倉岡有美子	日本赤十字学国際看護大学院
		佐藤伊織	東京大学大学院
		佐藤真由美	弘前大学
		島明子	名古屋大学
		清水佐知子	武庫川女子大学
		清鈴小百合	順天堂大学
		園部真美	東京都立国際大学
		鶴若麻理	聖名古屋大科学大学院
	新野島敬祐	京都府立医科大学	
樋上山容明	大阪医科大学		
檜山野成子	札幌医科大学		
藤野純子	佐賀大学		
星本啓子	香川県立大学		
宮本悦子	東京女子大学		
森本悦子	甲府女子大学		
八尋道子	佐久大学		
山崎あけみ	大阪大学		
吉田美香	大東大学		
植木慎悟	九州大学		
英文誌編集	委員長 編集長	グレッジ美鈴	名桜大学大学院
		William L. Holzemer	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		朝倉京子	東北大学大学院
		石原逸子	元神戸市看護大学
		上田佳世	奈良県立医科
		江藤宏美	長崎大学
		加澤佳奈	岡山大学
		加藤憲司	神戸女子大学
		北岡和代	公立小松大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		コリー紀代子	北海道大科学大学院
		近藤暁あ	東京医歯大
		齋藤あや	新潟大
		佐藤奈保史	千葉大
		副島堯準	神戸大
		田中麻一	長崎大
		谷口麻希	京医科歯科大
		千葉理美	横滨市立大
		千野木ルミ	京都医科歯科大
	月角田千恵	東京有明大	
寺本千恵	広島大		
野口真弓	日本赤十字豊田看護大		
深井喜代子	東京慈恵会医科大		
藤田君成子	九州大		
堀内嶋朋子	九聖路大		
眞嶋華子	千葉大		
操永尚	静岡大		
吉澤朝	宮崎大		
朝	東京医療保健大		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関	名
社会貢献	委員長	大久保暢子 角濱春美 木下真吾 高橋惠子 寺本千恵 松石雄二 松元悦子 水戸優子 横野知江 荒尾博美	聖路加国際大 青森県立保健大 日本赤十字 日崎島大 広島学 大加路大 山口県立保 神奈川大 新本保健科 熊日本赤十字	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	会計	吉田みつ子	日本赤十字	学学学学学学学
広報	委員長	西村ユミ 宇都宮明美 神崎初美 塩飽仁子 田中マキ 法橋尚宏 細野知子 福井里美	東関西大 関西医科大学 兵衛大 東山北戸 山神口 日本赤十字 東京大	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	会計	福井里美	東京大	学学学学学学学
看護倫理検討	委員長	鎌倉やよ 吾妻知美 高橋梢子 鶴若麻理 飛田伊都子 名越恵美 近藤絵美	日本赤十字 大阪根加 大島路医科 聖大阪山 岡大岡山 日本赤十字	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	会計	近藤絵美	日本赤十字	学学学学学学学
利益相反	委員長	山本則子 鎌倉やよ 國清恭子 角川由香 藤田あけみ 沼田華子 友納理緒	東日本赤十字 日群馬大 大前大 東弘大 東土肥大	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	外部委員	友納理緒	東京大	学学学学学学学
研究倫理審査	委員長	山本則子 五十嵐奈美 大澤真幸 竹内本邦彦 隈塚実緒 友納理緒	東馬野戸肥 東群長江長土 京馬野戸肥 京野戸肥 京野戸肥 京野戸肥	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	外部委員	友納理緒	京野戸肥	学学学学学学学
災害看護支援	委員長	西村ユミ 牛久保美津子 大神原かお 近藤麻理恵 三浦英慶子 國江慶子	東馬野戸肥 東群長江長土 京馬野戸肥 京野戸肥 京野戸肥 京野戸肥	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	会計	國江慶子	京野戸肥	学学学学学学学
若手研究者助成選考	委員長	池田真理 浅野みどり グレッグ美鈴 新福洋子 仲上豪二 宮本千津彦 丹野義彦	東名古屋大 名古屋大 東大 東大 東大 東大 東大	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	外部委員	丹野義彦	京野戸肥	学学学学学学学
研究助成選考	委員長	仲清水準一 清田敦子 田口ユミ 西村尚宏 法橋慎一郎 横田尚紀 吉永尚裕 四谷裕子 丹野義彦	東京大 東慶大 東神大 東宮大 東福大 東日大 京大 京大 京大 京大 京大 京大 京大 京大 京大	学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学 学学学学学学学
	外部委員	丹野義彦	京野戸肥	学学学学学学学

委員会活動報告

(2023年1月～12月)

(1) 和文誌編集委員会（井上智子理事）

学会誌（日本看護科学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学会誌 43 巻をオンラインで発刊した。
- ・2023 年 1 月以降の投稿論文数は、240 編であった（2023 年 10 月 20 日現在）。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・投稿規程等を全面的に見直し、2022 年 12 月から新投稿規程を適用した。
- ・2016 年から 2021 年までの投稿・採択・査読日数を集計し、まとめたものを委員会報告として日本看護科学会誌に投稿した。

(2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌 (Japan Journal of Nursing Science「JJNS」) の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.20 をオンラインで発刊した。
- ・2023 年 1 月以降の投稿論文数は、515 編であった（2023 年 9 月 30 日現在）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2022 年の Impact Factor は、1.7 であった（2023 年 6 月発表による）。

② 迅速査読の実施

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士の学位申請、または、博士の学位取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

2023 年 9 月 30 日現在 35 編の迅速審査を実施した（2020 年 19 編、2021 年 30 編、2022 年 38 編）

③ 発刊 20 周年記念事業

JJNS の創刊 20 周年にあたり、これまでの活動の記念と今後の発展を意図して、JJNS バッジを制作した。第 42 回学術集会ははじめ、EAFONS2023 やその他、関連行事の際に配布した。第 43 回学術集会でも配布予定である。

④ JJNS セミナーの開催

- ・JJNS セミナー： Improving Your Success at Publishing in English 2023 : Social media to

promote author's own paper をオンラインで開催する（2023年12月4日～2024年1月31日）。

(3) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。学術集会演題表彰の実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文18編（和文8編・英文10編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文6編（和文3編 英文3編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2023年9月5日に、全代議員、役員342名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10月4日までに返信された218件について評価点の集計を行った。回収率63.7%(218/342)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞1編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- ◆ Effects of e-learning on the support of midwives and nurses to perinatal women suffering from intimate partner violence: A randomized controlled trial
Naoko Maruyama【45歳未満】、Yaeko Kataoka, Shigeko Horiuchi
JJNS, 2022, Volume 19, Issue2 (e12464)
- ◆ Associations between psychiatric home-visit nursing staff's exposure to violence and conditions of visit to community-living individuals with mental illness
Hirokazu Fujimoto, Chieko Greiner, Tsuyoshi Mukaihata, Takeshi Hashimoto(非会員)※
JJNS, 2022, Volume 19, Issue4 (e12485)

【奨励賞】

- ◆ Association between temporary discharge from the inpatient palliative care unit and achievement of good death in end-of-life cancer patients: A nationwide survey of bereaved family members
Sakiko Aso【45歳未満】、Naoko Hayashi, Go Sekimoto(非会員)※、Naoko Nakayama, Keiko Tamura, Chieko Yamamoto(非会員)※、Maho Aoyama, Tatsuya Morita(非会員)※、Yoshiyuki Kizawa(非会員)※、Satoru Tsuneto(非会員)※、Yasuo Shima(非会員)※、Mitsunori Miyashita
JJNS, 2022, Volume 19, Issue3 (e12474)

※本賞は会員のみ授与される

② 学術集会演題表彰の実施

第43回学術集会において演題表彰を実施する。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は2段階で行った。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、

査読者2名以上による採点を行い、各賞上位およそ10演題を選考した。第2段階として、「優秀演題抄録賞」は、表彰論文選考委員会で最終選考を行い、最優秀抄録賞を決定した(10月)。また「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」の3賞については、学術集会当日の発表を表彰論文選考委員会で採点し最終選考を行う。最優秀賞の発表は当日行う。表彰については、学術集会2日目に時間と場所を設定し、受賞者に賞状と記念品を渡し、理事長および表彰論文選考委員会委員長との写真撮影を行うという対応とする。写真は後日学会HPで公開する。

(4) 研究・学術推進委員会(吉永尚紀理事)

会員の大型研究の推進に関する事業、JANSセミナーの企画・開催、学術集会における委員会企画の交流集会の実施、オンラインジャーナルクラブの実施、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

- ・2021年度に採択された涌水理恵氏について、すでに2022年度の「基盤研究(A)」に採択されているが、研究チームの構築支援として、当学会を通して2023年6月に研究協力者の公募を行い、その後も3ヶ月おきにリマインドメールを配信した。
- ・2022年度に採択された土屋雅子氏について、これまで支援を行ってきた前期委員の担当者を中心に研究計画および申請書類についての助言を行った。これに加えて、全国URA科研費申請支援機構の添削サービス費用を委員会経費から支出し、2023年度の「基盤研究(A)」への申請が完了した。
- ・昨年度と同様の内容で、今年度の公募を11月から開始する。

② JANSセミナーの企画・開催

- ・第22回JANSセミナー「激動する世界、変化する環境の中で研究者はどのように研究に向き合うか?」をWeb開催した(2023年8月21日~11月20日まで)。受講者数は、525名(会員517名・非会員2名・基礎教育課程学生6名)である(2023年11月2日現在)。
- ・第24回JANSセミナーの企画検討を行った。

③ 第43学術集会での交流集会の企画

- ・第43回学術集会において交流集会「地域と専門分野を越えて学び合うオンラインジャーナルクラブの活動紹介」を開催する。

④ オンラインジャーナルクラブ

- ・2023年3月17日にオンラインジャーナルクラブを開催し、84名(会員78名、看護学生6名)が参加した。
- ・2024年1~2月に開催予定のオンラインジャーナルクラブの企画検討を行った。

⑤ その他の事業

- ・JANSセミナーのアーカイブ化について、公開期間や発表者への確認事項等を検討し理事会に報告し、承認を受けた。
- ・学術集会の特別講演やシンポジウム等の中から、学術集会の参加者以外の学会会員にも広く配信すべきと思われる動画を、会員向けホームページにて配信するための手順を定めていくことについて、理事会で承認を受けた。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

看護ケア開発・標準化委員会会務分掌について、活動計画に基づき追加（下線部）を行い、HPを更新した。

1. 研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。そのモデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 に準拠した排泄に関する看護ケアガイドラインを策定し、その標準化を目標とする。
2. 看護ケアの標準化を促進するために、日本看護系学会協議会（JANA）との連携、看護系の各専門学会等との連携の可能性について検討する。

① 2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ◆ 「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」 佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）
 - ・ EAFONS 2023 での発表準備ならびにレビュー論文 3 編の投稿準備を行った。
- ◆ 「高齢者尿失禁看護ケアガイドライン（仮称）」佐藤和佳子代表（山形大学）
 - ・ 排尿誘導のひとつである Prompted Voiding のガイドラインについて、統括委員会・作成委員会・SR チームを組織化し、作成活動を継続している。
 - ・ 尿失禁を有する高齢者の生活指導について、新規 SR チームで文献検討を継続し、スコーピングレビュー結果を JANS 学会誌に投稿することを目的に、研究計画の検討を継続している。

② 2021 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ◆ 「看護ケアのための便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表（藤田医科大学）が完成し、2023 年 9 月 15 日に発刊し、JANS 会員に公開した。
 - ・ SR を実施し、JANS 学会誌への投稿準備を行っている。

③ 看護ケアの標準化に向けての看護系学会との協働に関する情報収集

- ・ 看護ケアの標準化を促進するために、日本看護系学会協議会（JANA）との連携、看護系の各専門学会と本学会との協働の可能性について検討を開始している。本年度は看護系学会の看護ケアの標準化（ガイドライン作りも含む）に関するニーズや課題などについて、調査を実施する。
- ・ 2024 年度の JANS44 の委員会企画として、本委員会で構築した看護ケアに関する標準化の方法論等のセミナー開催、成果の公表等の計画について、検討を開始する。

(6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与

する。

① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。また、JANS 若手の会ホームページについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成し、ウェブサイトの改修を行った。今後引き続きウェブサイトを通じて情報を発信する。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は 2023 年 10 月現在で計 941 名であり、2023 年 3 月時点の 891 名より増加傾向である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動やイベント投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報を発信した。

② JANS セミナーの開催

- ・ 第 21 回 JANS セミナー「看護実践力を高める DX の今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用のヒントを学ぼう」（オンデマンド配信）を開催した（2023 年 3 月 29 日～5 月 31 日）。受講者数は 989 名（会員 950 名・非会員 19 名・基礎教育課程学生 20 名）であった。

③ エリア検討会開催支援

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2023 年 1 月以降に開催されたエリア検討会は以下の 10 件である。第 2 回甲信越・北陸エリア検討会（2023 年 2 月 26 日開催）、第 4 回中国・四国エリア検討会（2023 年 3 月 4 日開催）、第 2 回関西エリア検討会（2023 年 3 月 5 日開催）、第 4 回北関東エリア検討会（2023 年 3 月 11 日開催）、第 1 回南関東エリア検討会（2023 年 3 月 18 日開催）、第 2 回東海エリア検討会（2023 年 3 月 25 日）、第 5 回北関東エリア検討会（2023 年 8 月 20 日開催）、第 5 回中国・四国エリア検討会（2023 年 9 月 2 日開催）、第 3 回東海エリア検討会（2023 年 9 月 2 日開催）、第 3 回甲信越・北陸エリア検討会（2023 年 9 月 23 日開催）。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

④ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・ エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用 Slack ワークスペース（2022 年 3 月末開設）を引き続き運営した。エリア間およびエリア内のエリア・コーディネーターの交流の場として活用された。
- ・ 次期エリア・コーディネーターの募集に関する情報発信と検討が行われた。

⑤ 第 43 回学術集会での交流集会の企画

第 43 回学術集会において交流集会「若手研究者がともに拓く未来～論文執筆からアクセプトまでの経験知を共有しよう～」を開催する。

⑥ 他学会とのコラボレーション

- ・ 看護理工学会主催「次世代委員会 第 5 回ものづくり体験ワークショップ」8 月 11 日、19 日開催を後援した。
- ・ 第 43 回学術集会において日本心理学会との合同シンポジウム「個体内比較によるケアエビデンスの創出：シングルケースデザインの挑戦」を実施する。

⑦ 日本学術会議 報告書作成への参画

日本学術会議より発出された Dx に関する報告書作成に参画した。

(7) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画 交流集会

第43回学術集会で、交流集会「From Struggle to Success : 「若手研究者が海外留学するための助成」経験者から学ぶ」を開催する。

② 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、全国の看護職他に利用していただいていることや、毎月平均300回のアクセスがあることが明らかになったため、当初の目的に合わせて、随時積極的に更新していく方針とした。執筆要領を作成し、2022年8月に会員を対象に執筆者の募集を呼び掛けた。24件の応募があり、委員会で検討の結果、13か国（ハンガリー、イギリス、オーストラリア、モロッコ、エルサルバドル、インドネシア、マレーシア、シンガポール、インド、ネパール、フィリピン、中国、バングラディッシュ）と、イスラム教についての情報を3～4月にかけて更新した。

③ WANS への協力支援

(8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

① 看護学学術用語の電子システムの普及促進

- ・2022年度立ち上げた看護学学術用語の検索サイト JANSpedia (<https://scientific-nursing-terminology.org/>) の会員への一層の周知、ならびに国内外での活用を広めるために、会員への情報発信、フライヤーでの一般社団法人日本看護系学会協議会、一般社団法人日本看護系大学協議会への情報発信、用語の英語翻訳を進めた。

② JANSpedia への新用語追加促進のための常時募集システムの構築

- ・既存の100の用語以外に、新用語を常時追加できるよう、新用語の常時募集要項、常時の審査基準等のシステムを構築した。
- ・新用語の常時募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。

③ 看護学学術用語追加の審査システムと JANSpedia サイトの操作の両マニュアルの作成

- ・用語追加の審査基準や審査プロセスの統一化ならびに次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアル作成を進行中である。
- ・JANSpedia の電子サイトについても統一した操作を明確にするため、次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアルを作成中である。

④ JANSpedia の実装評価の検討

- ・サイトの閲覧状況、用語の検索状況などを分析し、JANSpedia の持続可能性や有用性、掲載されている各看護学術用語の活用状況をデータ収集し、実装の状況を分析中である。

(9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業などを実施。

① 第 43 回学術集会において市民公開講座を開催

- ・第 43 回学術集会で市民公開講座「文化財への科学的接近」を開催する。

日時：2023 年 12 月 10 日 14：40～15：40（予定）

会場：下関市生涯学習プラザ 海のホール（予定）

講師：日本画家 選定保存技術保持者 馬場良治先生

② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

- ・次世代の看護学研究者発掘・育成事業として、中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を立案し検討ならびに実施を行った。
- ・「次世代研究者発掘育成プログラム」は、「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、「次世代研究者の発掘育成プロジェクト広報サイト(<https://jans.jp/>)」を立ち上げた。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画を作成・掲載し、さらに、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、4 名の若手看護学研究者のインタビュー記事を掲載した。また他サイトページでは国内外の看護学研究者の状況を情報発信した。
- ・上記のドキュメンタリー動画は YouTube よりフル・バージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=78pjvsQpGMg&t=22s>) とショート・バージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=INoJ6ew0ark>) として公開、広報サイトは、Instagramバージョンでも情報公開を行った。
- ・上記サイトならびに動画を視聴した中高生を対象に今後、交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

③ 次世代研究者発掘育成プログラムの実装評価の検討

- ・実施している本プログラムの実装評価を行うために、現在、評価項目と分析方法を委員会内で検討中である。

④ オンラインジャーナルクラブの計画案の検討と試行

研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会との合同で、会員を対象にオンラインジャーナルクラブの内容を検討し試行を行った（詳細は、研究・学術推進委員会の報告を参照）。

(10) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

① ウェブサイトの維持・管理・改善

- ・ 本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

② 学術集会等の広報活動

- ・ 第 42 回学術集会の様子を記録として本会ウェブサイトに掲載した。
- ・ 第 43 回学術集会のプレスリリースの作成・配布、市民公開講座の広報活動を行った。

③ 委員会成果物の公表

JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2022 年度表彰論文の追加掲載を行った。

④ 広報用マスコットキャラクターの制作

学会マスコットキャラクターとして、ジャンとスウを制作した。

⑤ デジタル広報の推進

- ・ 学会マスコットキャラクター（ジャンとスウ）を使ったデジタル広報媒体を制作し、YouTube チャンネルで公開した。
- ・ Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）と YouTube チャンネル（電子的広報の場）を開設し、デジタル広報を推進した。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・ 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・ 看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

上記の目標に関連し、看護学が関連する倫理的社会的社会事象である SDGs と看護学に関連するトピックスを取り上げ、第 42 回学術集会で「SDGs×看護学・研究・倫理」についての交流集会を企画し実施した。Davidson 博士の SDGs と看護学に関する講演動画は、翻訳の上、学会 HP に掲載した。また、研究倫理に関し、ありかたを検討する必要性について理事会に報告した。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・ 日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮った。
- ・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。

- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。
- ・学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの導入に向け、システム内容の検討・整備および業者選定を行った。

(13) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

- ・外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。
- ・会員から本学会研究倫理審査依頼があり、審査中である。

(14) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

看護系学会、および防災学術連携体等と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」（2022年7～8月調査）の調査内容について、さらに分析しなおして英訳し、“Association between anxiety and factors before and after dispatch support activities regarding the COVID-19 pandemic among Japanese nursing researchers”として、本学会英文誌に投稿する準備を行っている。
- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集、および会員への情報提供を行っている。
- ・会員を対象とした災害発生時緊急調査の準備を開始した。緊急調査では、会員の声、実態やニーズを把握し、会員との情報共有、および対応が必要な課題について支援策を検討する。検討にあたっては、防災学術連携団体等との連携ができるよう体制を整える。

(15) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。

- ・初年度である2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を行った。
- ・2022年度から随時募集としたが、問い合わせや申請はなかった。
- ・2021年度助成者から報告書が提出され、内容を確認後、受理とした。
- ・2023年度は1件の申請があり（2023年9月末現在）、海外留学について助成を決定した。

氏名（敬称略）	計画名	金額
長谷川 奈々子	University of Massachusetts Amherst への海外留学 高齢者施設ケアにおける尊厳の要素の具体化 (Exploring the elements of dignity in nursing home care)	860,000 円

2023年8月開催の委員会において、助成金額についての検討を行い、9月の理事会において、研究助成金の金額の改訂が承認され、規定等の変更が10月理事会において承認された。

10月に1件「若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成」の申請があり、審査の結果採択された。

氏名（敬称略）	計画名	金額
矢坂 泰介	訪問看護利用高齢者における身体機能低下の予測因子の検討： 前向きコホート研究 GSA 2023 Annual Scientific Meeting への出席	500,000 円

(16) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

研究助成等の新規事業の開始に伴い、正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

(17) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、このCOVID-19の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。2023年は下記の事業を実施した。

① 第1回調査（調査期間：2020年7月1日から8月10日）で取得したデータの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果について、2023年に新たに学術誌に掲載された2論文を学会HP上に公開した。

- ◆ Inoue M, Fukahori H, Matsubara M, Yoshinaga N, Tohira H.

Latent Dirichlet allocation topic modeling of free-text responses exploring the negative impact of the early COVID-19 pandemic on research in nursing.

Japan Journal of Nursing Science. 2023;20(2):e12520

- ◆ Lee K, Takahashi F, Kawasaki Y, Yoshinaga N, Sakai H.

Prediction models for the impact of the COVID-19 pandemic on research activities of Japanese nursing researchers using deep learning

Japan Journal of Nursing Science. 2023; 20(3):e12529

② 第2回調査（調査期間：2022年3月1日から3月31日）で取得したデータの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトについて、採択した4件（4チーム）に当委員会の委員が共同研究者として加わり研究チームを構築した。2024年3月末までに論文を投稿することを目指し、各チームで分析作業ならびに論文執筆を進めている。

- ③ 第1回・第2回調査で取得したデータ（自由回答の結果を除く）について、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託した。2023年秋頃に公開される予定である。

(18) 総務委員会（田口敦子理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理は IT の導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2023年の入会審査数は、794名であった（2023年10月現在）。

② 学会事務所の運営

- ・ 学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・ 事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特に COVID-19 対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。5月からは、5類への移行に伴い事務所出勤主体へと変更した。
- ・ 理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(19) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事）

2022年7月から会員向けに研究助成の申請を開始している。

① 2023年度の採択案の作成と理事会承認

② 2023年度助成事業採択者への助成金支給

- ・ 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
- ・ 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
- ・ 資金の確保 等

③ 検討事項の理事会承認

- ・ 所属先での所得がある大学院生・ポストドクターを対象にする
- ・ 指定課題研究助成の課題の決定

④ 2024年度の募集要項の作成と決定および募集（2023年10月28日締め切り済み、現在選考中）

(20) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

① 2023年選出代議員選挙実施

- ・ 2023年1月16日から29日に電子投票を実施、第3回選挙管理委員会を1月30日に開催、立会人のもと開票を行い、当選通知を郵送した。
- ・ 第4回選挙管理委員会を2023年2月27日に開催し、代議員名簿の作成と理事会への報告を実施した。本委員会で新代議員が決定したため、理事選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、

今後のスケジュール等について確認を行った。

② 2023 年選出役員候補者選挙実施

- ・ 2023 年 3 月 3 日公示文書をホームページに公開し、新代議員にメール配信を行った。
- ・ 2023 年 3 月 13 日から 26 日に電子投票を実施、第 5 回選挙管理委員会を 3 月 27 日に開催、立会人のもと開票を行い当選通知の郵送をした。
- ・ 2023 年 4 月 24 日の第 6 回選挙管理委員会で役員名簿を作成し、5 月 19 日の第 1 回理事会に選挙報告とともに提出し承認された。

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会 (JANA) (西村ユミ副理事長)

- ・ 2023 年度社員総会は、ハイブリット開催で行われた。
日時：2023 年 6 月 10 日(土)10:00~12:30 (意見交換会 10:00~10:50、総会 11:00~12:30)
会場名：TKP 東京駅カンファレンスセンターホール 10A
ハイブリット開催：新旧役員は現地参加あるいはオンライン、社員学会はオンライン参加
報告事項：2022 年度の活動報告、庶務報告、意見交換会・理事会報告、各事業報告、及び次期の事業案
審議事項：2022 年度決算報告、2022 年度監査報告、2023 年度予算案、定款の改正、新役員の承認、新会長選出 及び指名理事の承認
- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2023 年 1 月以降は 3 名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については 2016 年度から行っており、51 名の会員を推薦してきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した (2023 年 3 月 15 日オンラインにて)。
- ・ JANS43 に開催予定の共催シンポジウムに登壇者を推薦した。
- ・ その他、JANA から提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合 (看保連) (大久保暢子理事)

- ・ 看護系学会等保険連合の 2023 年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ 3 名の応募があり、社会貢献委員会で審査し 2 名が承認となった。

③ 日本学術会議 (西村ユミ副理事長)

- ・ 日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関 (西村ユミ副理事長)

- ・ 日本心理学会との合同シンポジウムの実施
- ・ 日本薬理学会との合同シンポジウムの実施

第1号議案

公益社団法人 日本看護科学学会 2024年度事業計画（案）

（2024年4月1日～2025年3月31日）

(1) 学術集会

- ・第44回日本看護科学学会学術集会開催
第44回学術集会会長：前田ひとみ（熊本大学）
日程：2024年12月7日（土）・12月8日（日）
場所：熊本城ホール 市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市民会館）
- ・第45回日本看護科学学会学術集会準備
第45回学術集会会長：有森 直子（新潟大学）
日程：2025年12月6日（土）・12月7日（日）
場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
- ・第46回日本看護科学学会学術集会準備

(2) 和文誌編集委員会（井上智子理事）

- ・日本看護科学会誌第44巻を発行する。
- ・2020年度に行った迅速査読制度、著者要件変更の評価を行う。
- ・必要であれば投稿規程、査読ガイドライン等の改定を行う。
- ・学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。
- ・学会誌への投稿・掲載の促進、編集委員・査読者の活動を支援する教育活動を行う。

(3) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.21 を発行する。
- ・JANS 関連行事にてプロモーション活動を行う。
- ・JJNS セミナー2024 を開催する。
- ・インパクトファクター向上を念頭に置いた戦略を構築する。
- ・迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備する。

(4) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

- ・表彰論文の選考を行い、優秀賞・奨励賞を公表する。
- ・学術集会における演題表彰制度を運用し4賞の選考を行い、演題表彰を実施する。
- * 優秀演題ポスター発表賞、優秀演題口頭発表賞、優秀演題抄録賞、若手優秀演題口頭発表賞
- ・他機関からの表彰の推薦依頼に関する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

① 会員の研究の支援活動

- ・大型研究費の獲得支援活動を継続して行う。運営方法を検討しつつ、公募、審査、支援を実施する。
- ・オンラインジャーナルクラブを継続して行う。運営方法を検討しつつ、定期的を開催する。

② セミナー・交流集会

- ・JANS セミナーの企画・開催を行い、事務局とアーカイブの管理を行う。
- ・学術集会における交流集会を企画・開催する。

③ その他

- ・研究・学術推進に関する事業を企画・検討する。

(6) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

1. 2019年度看護ケアガイドライン作成グループの「高齢者尿失禁看護ケアガイドライン（仮称）」草案を公開する。ならびに、SR チームによるレビュー論文を投稿する。
2. 日本看護科学学会が、看護系の専門学会と連携し看護ケアエビデンスの蓄積と標準化を促進し持続できるための具体的方策を検討する。

そのため、①日本看護系協議会、②各看護系専門学会との協力・連携の可能性について、意見交換およびアンケート調査等を実施し、検討過程および結果について公表する。

(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

- ・エリア・コーディネーターとの連携を強化するために、エリア・コーディネーター会議を開催し、エリアごとに実施することと全体で実施することを明確化する。
- ・エリア別活動（エリア検討会等）の活性化のための支援を行う。
- ・学術集会での交流集会を企画・運営する。
- ・日本心理学会との連携強化のための活動を行う。
- ・広報活動の充実を図る（学会ウェブサイトの更新、若手メーリングリスト運用）。
- ・学生の会員増およびJANS活動への参画を促すための、具体的な方法を検討する。
- ・若手ネットワーク活性化のための交流方法を検討する。
- ・若手研究者向けの研究方法 **How to** をテーマとしたセミナーシリーズを企画・開催する。

(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

- ・国際学会での研究発表の増加施策としてセミナー等の企画を行う。
- ・国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で実施する。

- ・海外学術団体と交流するための活動を行う。
- ・JANS ホームページ内「異文化看護データベース」を更新する。

(9) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

- ・構築した電子システム(JANSpedia)に掲載する新しい看護学学術用語を随時募集と審査のシステムとして整備し、JANSpedia の実装を促進し、実装評価と修正を継続する。
- ・既存の 100 の看護学学術用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、JANSpedia の更新を行う。
- ・電子システム (JANSpedia) の英語版を完成させ、日本で検討された看護学学術用語をグローバルに配信し実装と評価を行う。

(10) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

- ・第 44 回学術集会にて「市民公開講座」を開催する。
- ・次世代看護学研究者発掘・育成プログラムとして、サイトの更新と中高生との交流会を開催し、看護学研究者となる次世代に対する社会貢献事業の実装と評価を行う。
- ・市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。

(11) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

- ・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を行う他、他委員会との連携による学会活動の広報活動を展開する。
- ・学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会と社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
- ・開設した学会の Facebook ページと YouTube チャンネルを活用し、Facebook ページは会員が交流できる会員フォーラム、YouTube チャンネルは電子的広報の場として活用する。
- ・学会のマスコットキャラクター（ジャンとスウ）を広報活動に活用する。ジャンとスウを活用した広報動画を制作、公開する。キャラクターの人数を増やして広報に役立てる。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」において、高校生等の一般市民向けに、表彰論文の紹介を行う。
- ・WANS に関連した広報（①WANS 学術集会の広報、②WANS 学術集会における JANS の広報）について検討する。

(12) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

- ① 看護学に関連する「倫理的課題のある社会事象」に対する情報収集と対応案を検討する。
 - ・「倫理的課題のある社会事象」から、本委員会で取り組む課題を明確にする。

② 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

- ・ 学術集会交流集会で情報交換や啓発活動をするための準備を行う。

(13) 利益相反委員会（山本則子理事）

- ・ 役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。
- ・ 学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの導入に向け、システム内容の検討・整備を行う。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則・COI 申告書を必要に応じて修正・更新する。

(14) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

- ・ 申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査等）を行う。
- ・ 産学共同研究、起業看護職（自営等も含む）の研究倫理審査での利益相反委員会との連携を行う。
- ・ その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(15) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

- ・ 災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集、および会員への情報提供を行う。
- ・ 会員を対象とした災害発生時緊急調査の準備を行う。緊急調査では、会員の声、実態やニーズを把握し、会員との情報共有、および対応が必要な課題について支援策を検討する。検討にあたっては、防災学術連携団体等との連携ができるよう体制を整える。
- ・ 災害看護支援に関する交流集会等を企画・運営する。

(16) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

2024 年度の募集と実施について

① 海外で開催される国際学会発表への助成

随時応募受付。

② 海外留学への助成

2024 年度中に開始される海外留学への助成

③ 選考委員会の開催

上記①、②の申請により選考を実施の予定。

(17) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

① 既存の申し合わせ事項の会則との整合性の確認

- ・新規事業の開始に伴い新たな申し合わせが作成されている。各種申し合わせ及び内規と定款及び定款細則との整合性の点検を行い、修正すべき点を洗い出す。

② 定款の改正の必要性の検討

- ・新規事業の創設、実施にあたり、定款との整合性を確認・点検する。
- ・委員会の統廃合について検討し、定款との整合を確認する。

③ その他

- ・随時、規程等の見直しの必要性を検討する。

(18) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

- ・第2回調査データに関する取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを継続する。
- ・新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（第1回、第2回）について、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託されたデータの2次利用を促進する。

(19) 総務委員会（田口敦子理事）

- ・入会審査を行う。
- ・入会資格基準について課題を明確にして検討する。
- ・学生会員の創設について検討する。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握し課題を明確にして改善策を検討する。
- ・事務所職員の業務内容を整理し、新体制の構築やバックアップ体制の構築など、安全性の確保を図る。
- ・各事務所職員の所掌業務に関するマニュアルの見直しを促し修正する。
- ・各事務所職員に年間目標を立案してもらい、結果を職員と共に評価する。
- ・事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

(20) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事）

- ・2024年度助成金実施事業の確認
- ・2025年度の募集
 - ① 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
 - ② 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成

募集期間：2024年8月～10月（予定）

選考委員会の開催：2024年12月～2025年1月（予定）

(21) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

2025年選出理事候補者選挙準備

(22) 他機関との連携（西村ユミ副理事長／大久保暢子理事）

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ③ 日本学会協議
- ④ その他の機関

2024年度 事業活動収支予算書(案)
2024年 4月 1日 から2025年 3月 31日 まで

科 目	補足	2024年度予算額 (2024. 4. 1~ 2025. 3. 31)	2023年度予算額 (2023. 4. 1~ 2024. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入		105,250,000	101,750,000	3,500,000
正会員会費収入	※1	105,000,000	101,500,000	3,500,000
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0
②公益目的事業収入		48,276,000	48,165,000	111,000
寄付金収入(共通)		0	0	0
学術振興事業収入		120,000	240,000	△ 120,000
JANSセミナー	※3	120,000	240,000	△ 120,000
学会誌事業収入		2,656,000	2,175,000	481,000
学会誌販売収入		654,000	690,000	△ 36,000
著作権料収入	※4	1,732,000	775,000	957,000
学会誌収入その他	※5	250,000	650,000	△ 400,000
JJNSセミナー	※6	20,000	60,000	△ 40,000
学術集会事業収入		45,500,000	45,750,000	△ 250,000
学術集会参加費収入		44,570,000	44,300,000	270,000
事前登録会員(11,000円不課税)		19,800,000	19,800,000	0
事前登録非会員(14,300円税込)		7,150,000	7,000,000	150,000
事前登録学部生(無料)		0	0	0
当日登録会員(13,000円不課税)		13,000,000	13,000,000	0
当日登録非会員(15,400円税込)		4,620,000	4,500,000	120,000
当日登録学部生(無料)	※7	0	0	0
寄附金・助成金		930,000	1,450,000	△ 520,000
寄附金		500,000	500,000	0
助成金		430,000	950,000	△ 520,000
③収益事業等収入(広告販売収入)		9,647,000	9,168,000	479,000
企業展示出展料		4,994,000	5,390,000	△ 396,000
広告掲載料		2,013,000	2,178,000	△ 165,000
ランチョンセミナー		2,640,000	1,600,000	1,040,000
④法人会計収入		951,000	951,000	0
懇親会収入	※8	950,000	950,000	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
事業活動収入合計(I a)		164,124,000	160,034,000	4,090,000
2. 事業活動支出				
①公益目的事業支出		127,684,000	129,547,000	△ 1,863,000
学術振興事業支出		28,293,000	32,301,000	△ 4,008,000
研究・学術推進委員会費支出	※9	353,000	1,154,000	△ 801,000
看護ケア開発・標準化委員会	※10	2,960,000	9,520,000	△ 6,560,000
若手研究者活動推進委員会費支出	※11	1,986,000	955,000	1,031,000
国際活動推進委員会費支出		631,000	650,000	△ 19,000
COVID-19看護研究等対策委員会費支出	※12	0	200,000	△ 200,000
看護学術用語検討委員会費支出		1,603,000	1,381,000	222,000
看護倫理検討委員会費支出		153,000	477,000	△ 324,000
災害看護支援委員会支出		536,000	500,000	36,000
若手研究者助成選考委員会		90,000	90,000	0
若手研究者助成金支出	※13	7,000,000	5,000,000	2,000,000
研究助成選考委員会		1,037,000	922,000	115,000
研究助成金支出	※14	10,000,000	10,000,000	0
研究倫理審査委員会費		160,000	94,000	66,000
JANSセミナー開催費	※15	1,784,000	1,358,000	426,000
学会誌事業支出		40,604,000	37,325,000	3,279,000
和文誌編集委員会費支出		50,000	48,000	2,000
和文誌編集費支出	※16	14,544,000	12,285,000	2,259,000
英文誌編集委員会費支出		765,000	570,000	195,000
英文誌編集費支出	※17	22,870,000	21,845,000	1,025,000
表彰論文選考委員会費支出		183,000	474,000	△ 291,000
受賞論文表彰費支出	※18	1,439,000	653,000	786,000
JJNSセミナー開催費	※19	753,000	1,450,000	△ 697,000
学術集会費支出		53,452,000	55,059,000	△ 1,607,000
当年度開催学術集会	※20	49,882,000	50,644,000	△ 762,000
次年度開催学術集会(準備期間)	※21	3,570,000	4,415,000	△ 845,000
市民講座等事業支出		5,335,000	4,862,000	473,000
社会貢献委員会支出(市民公開講座開催費含む)		3,550,000	3,162,000	388,000
広報委員会費支出(公益目的事業分)	※22	1,785,000	1,700,000	85,000

科 目	補足	2024年度予算額 (2024. 4. 1～ 2025. 3. 31)	2023年度予算額 (2023. 4. 1～ 2024. 3. 31)	差異
②管理費支出		73,213,000	67,636,000	5,577,000
給料手当支出	}	29,946,000	26,564,000	3,382,000
福利厚生費支出		※23	5,543,000	4,808,000
通勤費支出	※24	2,148,000	1,794,000	354,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※25	538,000	518,000	20,000
社員総会費	※26	4,625,000	3,930,000	695,000
理事会費	※27	2,874,000	2,917,000	△ 43,000
委託費支出	※28	7,554,000	7,347,000	207,000
人件費支出		40,000	40,000	0
渉外費支出		15,000	20,000	△ 5,000
旅費交通費支出	※29	846,000	780,000	66,000
通信運搬費支出	※30	1,817,000	2,124,000	△ 307,000
消耗品費支出		980,000	1,100,000	△ 120,000
印刷製本費支出		311,000	135,000	176,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		390,000	618,000	△ 228,000
賃借料支出	※31	7,984,000	7,778,000	206,000
保険料支出		83,000	83,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※32	1,254,000	950,000	304,000
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		3,059,000	2,888,000	171,000
懇親会運営費支出		1,800,000	2,000,000	△ 200,000
委員会活動費支出		526,000	362,000	164,000
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)	(※22)	25,000	20,000	5,000
会則等検討委員会費支出		192,000	192,000	0
利益相反委員会費支出		149,000	135,000	14,000
選挙費用支出	※33	150,000	5,000	145,000
③その他支出		2,200,000	2,200,000	0
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
事業活動支出合計(I b)		203,097,000	199,383,000	3,714,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)	※34	△ 38,973,000	△ 39,349,000	376,000

- ※1 2024年4月1日時点での会員数を10,400名、新入会者・再入会者800名、資格喪失者700名と見積もり、合計10,500名分を会費収入として計上。
- ※2 (株)日本看護協会出版会(2口)、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版(各1口)。賛助会費1口5万円。
- ※3 第24回と第25回JANSセミナーの参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。
- ※4 和文誌・英文誌の著作権料。英文誌出版社(Wiley)との契約変更に伴い増額。(8%⇒15%)
- ※5 和文誌の会員外の共著者掲載料。英文誌の超過頁課金が頁数の見直しにより減少している。(11頁超え→20頁超え)
- ※6 JJNSセミナー2024の参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。
- ※7 第44回学術集会の参加費、寄附金、協賛金などの収入。
- ※8 第44回学術集会の企画であるが参加者の交流の場であることから公益目的事業(事業費)ではなく管理費に含む。
- ※9 大型研究費の獲得支援、オンラインジャーナルクラブ開催などを継続して行うが運営方法の検討などにより経費の減少を見込んでいる。
- ※10 ガイドライン作成の準備期間となるため印刷製本費、郵送費などが減少している。
- ※11 新たな若手向けセミナーの企画・開催に関する費用等を増額している。
- ※12 調査データの分析・論文執筆、研究活動への影響と学会へ求める支援など継続して行う。調査データは取得しているので経費予算は立てていない。
- ※13 助成金額の見直しにより増額している。若手研究者助成資金の積立てから取り崩して若手研究者助成金支出に充当する。
- ※14 研究助成資金の積立てから取り崩して研究助成金支出に充当する。
- ※15 第24回と第25回のJANSセミナー開催費用。
- ※16 投稿論文の増加、会員外の共著及び迅速査読の導入により投稿論文の更なる増加と編集作業の増加が見込まれるため増額している。
- ※17 編集事務費の見直しにより増額している。
- ※18 演題表彰用賞状ホルダーの作成および副賞購入の費用を増額している。(2年毎に作成)
- ※19 JJNSセミナー2024の開催費用。
- ※20 第44回学術集会に関わる開催当年度の費用。(開催地:熊本県)
- ※21 第45回学術集会に関わる開催前年度の費用。(開催地:新潟県)
- ※22 【広報委員会の活動のうち公益目的事業(市民公開講座、学術集会)に関する経費を事業費に計上している】
- ※23 正職員6名、パート1名(週1日～2日勤務)の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。正職員1名増員のため増額している。
- ※24 正職員1名を増員するため増額している。

- ※25 学会総会1回開催(12月/第44回学術集会の会場を使用)
- ※26 社員総会2回開催(6月東京・12月熊本/貸し会議室使用)。議案書作成・郵送の外部委託費用を増額している。
- ※27 定例理事会6回開催(5月、6月、9月、10月、12月、2月)。6月・12月は貸し会議室利用。
- ※28 【法人として必要】
会計事務所(151万円)＜会計顧問料(78万円)、内閣府提出書類作成料(11万円)、社会保険労務士(33万円)、償却資産申告書作成料(1万円)、変更認定書類作成(28万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料(284万円)＜基本利用料(116万円)、会費コンビニ決済機能(28万円)、学術集会参加登録・行事管理機能(83万円)、クレジット決済機能(35万円)、ディスク領域使用料(7万円)、アンケート機能(15万円)＞、JANSホームページ年間維持更新管理料(157万円)、翻訳費用(17万円)、Web会議システムZoom(24万円)、事務所PCサポート・セキュリティサービス・プロバイダ保守費用(20万円)、封入・発送手数料(26万円)
- ※29 事務職員の出張に伴う旅費。第44回学術集会は熊本開催。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※30 郵送していた書類をホームページから出力可能にするため郵送料が減少している。
- ※31 事務所PC更新に伴う新規リース契約、職員増員に伴う台数の増加によりリース料を増額している。
- ※32 インボイス制度開始に伴い支払消費税を増額している。
- (※22) 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費(会議費)を管理費に計上している】
- ※33 理事選挙費用。選挙資金の積立てから取り崩して選挙費支出に充当する。
- ※34 事業活動収支差額には積立資金から取り崩す【助成金支出(1700万円)】、【選挙費用(約15万円)】が含まれている。

2024年度 収支予算書（案）

2024年4月1日から2025年3月31日

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					52,500,000	52,500,000				52,500,000	105,000,000
賛助会員受取会費					250,000	250,000					250,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		654,000				654,000					654,000
著作権料		1,732,000				1,732,000					1,732,000
学会誌収益その他		250,000				250,000					250,000
セミナー収益	120,000	20,000				140,000					140,000
学術集会参加費				44,570,000		44,570,000					44,570,000
広告販売収入							9,647,000		9,647,000		9,647,000
懇親会収入										950,000	950,000
寄付金・助成金			930,000			930,000					930,000
雑収益											
受取利息										1,000	1,000
その他の雑収入											
経常収益計	120,000	2,656,000	45,500,000		52,750,000	101,026,000	9,647,000		9,647,000	53,451,000	164,124,000
① 事業費											
学会誌発行費		37,414,000				37,414,000					37,414,000
表彰費		1,439,000				1,439,000					1,439,000
支払助成金	17,000,000					17,000,000					17,000,000
会場費	1,044,000	95,000	24,302,568	250,000		25,691,568	410,432		410,432		26,102,000
会議費	403,000	92,000	472,028	30,000		997,028	7,972		7,972		1,005,000
旅費交通費	1,051,888	678,775	1,318,345	50,778		3,099,786	25,486	6,950	32,436		3,132,222
消耗品費	535,279	94,302	2,557,196	85,653		3,272,430	46,920	8,051	54,971		3,327,401
通信運搬費	764,052	166,303	3,317,826	151,104		4,399,285	62,951	14,927	77,878		4,477,163
印刷製本費	2,008,669	31,753	4,145,732	111,314		6,297,468	71,199	2,555	73,754		6,371,222
委託費	6,495,221	1,249,816	16,715,507	4,294,820		28,755,364	58,510	62,056	120,566		28,875,930
諸謝金	2,462,000	150,000	900,000	310,000		3,822,000					3,822,000
雑費	1,127,036	316,144	1,792,105	411,289		3,646,574	41,912	25,130	67,042		3,713,616
賃借料	2,764,089	686,806	1,861,777	290,464		5,603,136	61,841	65,588	127,429		5,730,565
租税公課	11,984	108,600	574,210			694,794	457,771		457,771		1,152,565
通勤手当	743,645	184,777	500,889	78,146		1,507,457	16,637	17,646	34,283		1,541,740
退職給付費用	588,546	146,239	396,421	61,847		1,193,053	13,167	13,965	27,132		1,220,185
福利厚生費	1,919,006	476,824	1,292,564	201,658		3,890,052	42,934	45,536	88,470		3,978,522
光熱水料費	135,019	33,549	90,944	14,188		273,700	3,021	3,204	6,225		279,925
修繕費	17,310	4,301	11,660	1,819		35,090	387	411	798		35,888
保険料	28,735	7,140	19,354	3,020		58,249	643	682	1,325		59,574
減価償却費	935,890	35,753	96,918	15,121		1,083,682	3,219	3,414	6,633		1,090,315
給料手当(委員会等人件費含む)	10,812,410	2,706,038	7,698,065	1,259,457		22,475,970	231,949	246,006	477,955		22,953,925

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
会場費											
会議費										31,000	31,000
学会総会費										538,000	538,000
社員総会費										4,625,000	4,625,000
理事会費										2,874,000	2,874,000
旅費交通費										321,778	321,778
消耗品費										278,599	278,599
通信運搬費										577,837	577,837
印刷製本費										87,778	87,778
委託費										2,400,070	2,400,070
諸謝金										61,000	61,000
雑費										872,384	872,384
賃借料										2,253,435	2,253,435
租税公課										101,435	101,435
通勤手当										606,260	606,260
退職給付費用										479,815	479,815
福利厚生費										1,564,478	1,564,478
光熱水料費										110,075	110,075
修繕費										14,112	14,112
保険料										23,426	23,426
減価償却費										117,307	117,307
渉外費										15,000	15,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										430,000	430,000
懇親会費										1,800,000	1,800,000
給料手当(委員会等人件費含む)										8,549,075	8,549,075
経常費用計	50,847,779	46,117,120	68,064,109	7,620,678		172,649,686	1,556,951	516,121	2,073,072	28,781,864	203,504,622
当期経常増減額	△ 50,727,779	△ 43,461,120	△ 22,564,109	△ 7,620,678	52,750,000	△ 71,623,686	8,090,049	△ 516,121	7,573,928	24,669,136	△ 39,380,622
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					7,833,575	7,833,575	△ 7,833,575		△ 7,833,575		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 50,727,779	△ 43,461,120	△ 22,564,109	△ 7,620,678	60,583,575	△ 63,790,111	256,474	△ 516,121	△ 259,647	24,669,136	△ 39,380,622
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 50,727,779	△ 43,461,120	△ 22,564,109	△ 7,620,678	60,583,575	△ 63,790,111	186,474	△ 516,121	△ 329,647	24,669,136	△ 39,450,622

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合(面積割合や従事割合など)に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用(要積立額)」を本予算書に計上している。

第3号議案

第46回日本看護科学学会学術集会会長の承認

第46回（2026年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

西村 ユミ（東京都立大学）

